



男子への性教育を研究する養護教諭

なゆみ
辻 奈由巳さん(25)

恥ずかしくもない 一緒に話そう

大阪の高校で養護教諭として働きながら、大学院で「男子への性教育」を研究している。

11月、勤務校で生き方を考える授業があった。3年生が選択する11講座のうちの「理想の恋愛」を担当。「付き合うときに大事にする価値観は」などに発言が飛び交う。最後に「幸せな恋愛のために必要な力って何だと思う？」と問いかけた。「私だって迷いながら生きている。誰かに合わせるのではなく自分の考えで動いてな」。生徒

奈良県出身。京都教育大大学院2年生。教職員や医療関係者らで作る「人と性」教育研究協議会に所属し、今夏、全国大会で研究内容を発表した。

たちに人生を肯定して生きてほしい。その礎になると考えるのが性教育だ。

初めて勤めた前任校で、保健室に來ても症状を説明できない男子生徒たちに会った。自分の体のことを知らない。射精を「汚らわしい」ととらえる男子の割合は、女子の1・5倍以上という調査もある。海外と比べて不足している日本の性教育の中でも男子が対象の内容は、より限定的だ。知識がないせいで体に否定的になり、自信のなさや自分や人を傷つけることにつながっていくのではないかと考える。

学校では10年前から1年生に「性と生を語る授業」をしており、今年度着任すると、体の仕組みを学ぶ授業を加えてもらった。「自分をもっと知って、好きになって」と願う。文・写真 山田佳奈

◆次回は12月8日に掲載予定です。

記者から

自分らしく生きてほしいと生徒たちを思う気持ち、まっすぐに伝わってくる先生です。